

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

### 「東予にもあります 椿さん」 〈柳森神社〉

「椿さん」と聞いて、誰もが頭に思い浮かべるのが、松山市にある「椿神社」の春の例大祭だと思いますが、東予地域にも「東予の椿さん」と呼ばれている神社があります。「やなぎのおてんのうさん」として地元の人に親しまれている柳森神社（明理川）です。

天正元年9月、大洪水のために上流にあった社殿とともにそこで祭っていたご神像が流され、この地の柳の木に引っかかりました。信仰深い地元の住民は神社を建立して、このご神像を祭ったと伝えられています。旧暦1月7日と8日の2日間にわたり縁起開運、家内安全、商売繁盛などを祈念して初市が開催され、市内外からの参拝者でにぎわいます。

この初市は、毎年、松山市にある椿神社の春の例大祭と

同じ日、旧暦1月7日に行われることと、縁起開運、商売繁盛などのご利益も似ていることから、いつのころからか「東予の椿さん」とも呼ばれるようになりました。お参りする人は松山の椿さんには及びませんが、餅まきもあり、福を手に入れようと毎年大勢の人がお参りにやってきます。

今年は、2月1日(日)と2日(月)に初市が開催されます。白く雪化粧をした石鎚山を眺めながら、今年1年の開運を願って参拝してはいかがでしょうか。

ただし、駐車場がないので、車でお越しの際はご注意ください。



アクセス

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

### 「福」を呼ぶ伝統行事

#### 磐根（いわね）神社の「初笑い」

今年も丹原町鞍瀬地区に続いている新春の恒例行事「初笑い」が元日午前10時から同所磐根神社（佐伯彦淳宮司）本殿で行われました。

この行事は、昭和22年に故安藤芳光さんの呼びかけで始まりました。当時は終戦直後の混乱期で、人の心もすさんでおり、どこの家をのぞいても暗いムードで、笑いがありませんでした。そこで、笑いを通じてお互いの和を深めようと「笑う門には福きたる」と地区民に呼びかけ、除夜の鐘が鳴ると同時に神社に集まって行っていました。現在では初笑いに賛同する人も増え、地域の伝統行事となり、元日の朝「元旦祭」の中で行われるようになりました。

同日は本殿に集まり、あおり役の渡辺昭美さんが打ち振

る、日の丸扇子のリズムに合わせ全員が「ワッ、ハッ、ハッ」「ワッ、ハッ、ハッ」「ワッ、ハッ、ハッ」と3度、腹の底から声を出して大笑いをし、「いやなことは飛んでゆけ」「福の神よ、やって来い」と新しい年の「福」到来を祈っていました。

ピーク時には500戸を超えた同地区も、今では100戸を切る状態になっていますが、この素晴らしい伝統行事がいつまでも地域に根づき、毎年福が来て、笑い声の絶えない地域であることを願っています。



初笑いの様子

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

### 近藤篤山旧邸の椿

伊予の銘椿「篤山椿」



近藤篤山旧邸には「五友園」という庭園があります。

園内の石碑には「園の竹 蓮らんきくに 梅の花 いくつかの友の主は山松」という、庭園の名の由来である篤山先生の短歌が刻まれています。

その意味は、竹、蘭、菊、梅はいずれも中国で古くから最も人に愛された植物の四君子で、これに篤山先生は好みの蓮を加えて庭に植えたそうです。山松は篤山の本名・春崧（はるか）の一字を詠んだもので「だから五つの友の主は私である」ということだそうです。

この庭園には多くの椿があり、晩秋から咲き始め、翌春

まで次々と香り高い花を開きます。その中で、篤山先生がこよなく愛でたという椿があります。3月下旬に見ごろを迎える、ひときわ際立つ純白の花、一重咲きで、清らかさと気品を漂わせた深い味わいのある「篤山椿」です。「伊予五大椿」に選ばれた銘椿で、小松の椿を代表する椿です。

また、ほかにも多くの銘椿があり、玄関先には非常に珍しい椿「唐椿」や「羽衣」の古木などもあり、2月から春先に掛けて旧邸の見学以外でも来館者を楽しませてくれます。ぜひ一度お越しください。

※今年は花が少なめとなっています。

※庭園への立ち入りは禁止となっています。



近藤篤山旧邸